

「中京都構想」「平成の楽市楽座」

マニフェストの実現強調

県議会 大村知事、初の代表質問答弁

2月定例県議会は2日再開。豊橋、新城両市で発生した高病原性鳥インフルエンザ対策事業費3億7550万円を新年度一般会計補正予算案として追加上程、提案理由を説明した。



渡会克明氏

このあと代表質問が行われ、久保田浩文自民党県議団長(稲沢市)▽塚本久民主党県議団長(北区)▽渡会克明公明党県議団長(豊橋市)の3氏が、大村秀章知事の県政運営に望む基本姿勢や中京都構想、

東三河県庁(仮称)の設置について質問した。渡会氏は、大村知事がマニフェストに掲げた「中京都構想」と「三遠南信地域」、県民税の減税などについて知事の考えをたずねた。これに対し大村知事は「中京都構想は、愛知・名古屋を世界と闘える大都市にし、日本の顔となる地域にするのが狙い。また東三河県庁は、農業をはじめ、自動車輸入では日本トップクラスの三河港、県境を越えた三遠南信の広域圏を持つ東三河の魅力を最大限に生かすもので、愛知全体を平成の楽市楽座を目指す」などと答弁。マニフェストの実現を強調

した。しかし、初の代表質問とあって、それ以上

踏み込んだ答弁はなく、大村知事、各会派ともに軽くジャブの応酬で様子見。無難に第1日目の代表質問を終えた。(後藤康之)